

鬼岳

標高 315 メートルの鬼岳の禿げた円錐形の山頂は、五島で最もよく知られた名所のひとつである。

福江港の南にそびえ立つ鬼岳は、鬼岳火山群と呼ばれる東海岸に連なる火山のひとつである。鬼岳火山群は「単成火山群」と呼ばれ、比較的小さな火山が一度だけ噴火し、同じマグマ源を共有している。五島は、このタイプの火山が見られる日本で 3 か所しかない場所のひとつである。

鬼岳の形成は、約 300 万年から 500 万年前の楯状火山の噴火によって始まった。地球上で最も巨大な火山のひとつである楯状火山は、高さよりも幅が広く、側面はなだらかである。鬼岳を含む鬼岳群の各山頂は、約 5 万年前に噴石丘が噴火を開始し、既存の楯状火山の上に形成された。噴石丘はスコリア・コーンと呼ばれることもあり、火山の最も一般的なタイプのひとつである。噴石円錐は、激しい噴火によって溶岩が空高く舞い上がり、燃え殻や固まった岩の塊となって冷やされることで形成される。これらは地上に落下し、噴出口を中心に円錐状に積み重なる。鬼岳はこの円錐形の中では最も新しく、約 1 万 8000 年前に噴火した。

草に覆われた山頂を見れば、この山はすぐにわかる。かつて斜面に林立していた松は、19 世紀半ばの福江城築城の際に伐採された。築城地の湛水地盤に耐えるため、樹脂含量の高い（腐りにくい）木材が必要だったからだ。その後数十年もすれば、山には木が生え変わるだろうが、住民は 3 年ごとに管理焼却を行っている。そのため、山の草花は日照を奪い合うことなく斜面に繁茂する。夏から秋にかけては、シーボルトリリー、リンドウ、ツバメオモトなどの花が斜面に咲き乱れる。

鬼岳山頂までのハイキングは比較的苦にならず、途中には展望台とピクニックエリアがある。そこからの

眺めは、港湾地域、鬼岳火山群の周囲の峰々、そして沖合に点在する小さな無人島を含む広大な海が見渡せる。夜は星空観測の人気スポットであり、天気の良い日には、強い海風と木々のない山は凧揚げに最適である。毎年5月には、鬼岳で伝統的なバラモン凧を祝うイベントが開催される。